

新春
対談

「好き」と「楽しい」が原動力に 札幌から追いかけた夢

札幌から全国の人気者となったお笑い芸人「タカアンドトシ」。中学時代にコンビを結成したこの街は、二人の原点です。その活躍は私たち市民にとってちよびり誇らし、親戚のような気持ちで応援している人も多いのではないだろうか。今回は秋元市長との対談で、30年にわたって切り開いた彼らの成功の軌跡と故郷への思いを、たっぷりと語っていただきます。

詳細 広報課 ① 2036
実施日 2025年10月24日
会場 市立西岡北中学校 豊平区西岡3の8

相方をスカウト、 廊下でコンビ結成！

タカ 僕たちがコンビを組むきっかけになったのが、まさにここ（対談会場である）西岡北中学校での出会いなんですよ。廊下で保健だよりを見ていたトシに「俺と漫才やろうぜ」って声をかけたのが僕。笑いのつばも同じだし、とにかく一緒にいて楽しかったんです。プロを目

指すなら、相方はコイツしかない！と。

トシ 僕はプロになりたいとか、まだそんな気持ちじゃなかったですけどね（笑）。ただ毎日のようにお互いの家を行き来して、遊びの延長線にお笑いがあった感じです。自分たちの漫才を録画した8ミリビデオの映像を見て楽しんだりとかね。

タカ テレビに映して見てたな（笑）。僕は思い込みが強く、将来はお笑いの道に進むんだって決めていました。学校の先生に「簡単じゃないよ」と言われたこともありましたが、当時大ファンだった俳優の牧瀬里穂さんに会うためには芸人になるしかない、これと思い込み（笑）。根拠はないけど「絶対、芸人になるんだ」って信じていました。

市長 私も子どもの頃、漠然と「将来はこうなりたい」と思っていたことはありませんが、なかなか絞り込むことができませんでした。そういう人も多いと思いますが、なぜお二人は若くしてお笑いのプロを目指す決断ができたのでしょうか？

タカ やっぱ「好き」とか「楽しい」という気持ちがあったからだと思います。よく「下積み時代は大変だったでしょう」「売れるためにどんな努力をしたんですか」なんて言われますけど、大変とかつらいとかは全然なくて。

トシ ただ「スベるのはイヤだ」「あの舞台に立ちたい」、その一心で漫才の練習をしていました。

お笑い芸人

タカアンドトシ

タカ

トシ



札幌市長

あきもとかつひろ
秋元克広





楽しいことは続けられる

タカ 下積み時代に将来への不安がなかったと言ったらうそになります。でも芸人を目指す仲間には面白い人たちがいっぱいいて、そんなことを忘れてしまいうらい毎日が楽しかったです。だから「錦鯉」の長谷川^{はせがわ}みたいに、50歳まで芽が出なかったけど芸人続けているヤツもいる（笑）。※札幌出身のお笑い芸人

トシ 好きなことや楽しいことに夢中になっているうちに、気付いたらここに立っていた…そんな感覚です。僕たちの場合は、両親が「自分の好きなことをやればいいんじゃない」

“好き”や“楽しい”は、
夢中というエンジンを加速してくれる。
それはどんな困難や苦労にも勝る、
夢への推進力だった。



タカアンドトシ／お笑い芸人

中学校の同級生だった2人が1994年にコンビ結成。地元北海道で活動後、東京に進出。2004年の「M-1グランプリ」で決勝進出したほか、2005年と2006年の「爆笑オンエアバトル チャンピオン大会」(NHK総合)で優勝。全国ネットから北海道のローカル局までバラエティ番組を中心に幅広く活躍し、漫才でも舞台上に立ち続けている。

子育てを経験して 気付いたこと

仲良くなりたかったと思ったら、迷わず一歩踏み出してみたら良いと思います。

と、活動を後押ししてくれていたことも大きかったですね。

市長 お二人のお話を聞いて、若い世代がいろいろなことに挑戦したり、心から「好き」「楽しい」と感じられることを見つけれられる環境が大切だと改めて感じました。みんなが挑戦できて、夢を持てるように、そして周りも温かく見守ってあげられるような基盤づくりに市としても取り組んでいきたいですね。

トシ 好きなことを見つけて、続けられる環境があるのは、それだけで

幸せなことだと思います。もちろん僕らの世界は売れたら最高ですけどね（笑）。

タカ 加えて、僕は父から「三浦君（トシ）に会えたことが幸運、奇跡だな」って、いつも言われています。確かにトシが転校して来なかったら「タカアンドトシ」は生まれていないし、違う相手とやっていてもうまくいかなかったかもしれない。本当にちよつとしたボタンのかけ違いでまったく違う人生になっていたかと思うと、人の縁ってすごいんですね。

市長 お二人はプライベートではそれぞれお子さんがいらつしやる、お父さんですよ。東京での子育てを経験して、ご自身が育った札幌をどんなふうに見ていますか？

タカ 僕は札幌が大好きで、大型連休などによく子どもたちを連れてきています。できることなら札幌に住み、自然を感じながら子どもを育てたいと思っています。

トシ 東京に限らずですが、最近はず



子どもたちの遊びなどに制限が多く、首都圏での子育てはいろいろ大変です。

タカ 札幌はスキー場も近くてウィンタースポーツも気軽に楽しめるし、今思えばぜいたくな環境ですね。子どもたちが伸び伸び成長できる、すてきな街だと思います。

市長 ありがとうございます。利便性が高く、自然も豊かという「ちよつと良き」が札幌の魅力です。そして、市では子育てを楽しみながら生き生きと暮らせる街を目指し、子育ての悩みを気軽に相談できたり、夫婦が協力し合って子育てができる環境づくりに力を入れていますよ。

トシ 僕は仕事が多忙で地方に行く機会も多いので、家にいる時は、

子どもたちの身支度や送り迎え、片付けなど、できることは妻が言われる前にやろうと心がけています。

市長 今は共働きの方もたくさんいらつしやいます。負担は夫婦のどちらかに偏りがちですが、夫婦が一緒に子育てをすることが当たり前になって「負担」ではなく、「楽しみ」を分け合えるような社会をつくっていきたいですね。そして家庭だけでなく、社会で育てるという考え方も大切にしていきたいです。

やっぱり 札幌の冬が好き！

市長 ところでお二人は、冬の札幌のどんなところが好きですか？

今年の抱負

市長 最後に、お二人の今年の抱負をお聞かせください。

トシ 北海道で長く出演させてもらっている番組もあるので、北海道の食と笑いを融合させたイベントを



コンビ結成30周年を記念して、2人の母校・西岡北中学校の2年生が制作したモザイクアート。大作を背景に、記念撮影。

開催したいという目標があります。

市長 ぜひ実現してください！

タカ お笑いを通して、札幌や北海道の魅力を発信していけたらうれしいですね。

市長 札幌にはお笑いはもちろんのこと、演劇、プロスポーツなど、楽しみがたくさんあります。今年も市民の皆さんがわくわくしたり、笑顔で暮らせる1年になるように、街を盛り上げていきたいです。お二人のご活躍にも期待しています！